

平成 28 年度

事業所名 : グループホーム「平」

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	039030007		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム「平」		
所在地	岩手県大船渡市大船渡町字下平24-1		
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成29年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvoCode=0390300077-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvoCode=0390300077-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 3 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年4月開所以来、今年度で7年目となる当事業所は、大船渡湾を臨む高台に位置しており、海に精通して育った利用者の生活の中に溶け込んでいただけるよう関わりを続けている。平成23年の東日本大震災において、多くの地域が被災し、徐々に復興が進んでいる中、震災で得た教訓を踏まえ取り組みを行っていく中で地域との連携や今後のあり方について事業所としてどのように関わりをもつべきか模索しながら事業所の運営を進めている。災害時における事業所の役割として地域住民の避難場所の確保、水や食料はもちろん、皆が共に支え合っている関係性の構築等、運営推進会議を通じて協議を重ねている。また、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と協力体制をとりながら利用者のさまざまなニーズに対応出来るよう取り組みを行っている。利用者とスタッフが家族のように共存できる環境づくりを目指し、利用者を含めて考えた理念のもと、日々穏やかに過ごすことが出来るよう心掛けている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から住宅地を通る坂道を登った高台に位置し、海や対岸の緑が一望できる明るく開放的環境にある。開所7年目を迎え一体的に整備した小規模多機能と連携・交流を図りながら災害時の対応に協力しあい取り組んでいる。職員は理念の基本姿勢を共有し、「一緒に・楽しく・ゆっくり・のんびり」とした生活を目指した支援に徹している。管理者は職員個々の得意分野を發揮させながら、ホーム全体の質的向上を目指すなど、素晴らしい取り組みをしている。また、地域住民を対象に高齢者の食事勉強会(献立・調理)の実施や、自然災害等には法人による物的・人的な支援のほか、終末期対応も全職員で対応策を検討するなど、グループホームの役割や機能を全面的に活かす取り組みを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム「平」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会を通じて、理念の意味を確認し、継続して取り組みを行えるようにしている。理念は皆が見えるところに掲示すると共に共通の目標として実践につなげるよう取り組みを行っている。	「共に」を理念とし、「ここが我が家」「皆が家族」を目指し、日常生活のケアを行うことを目標としている。掲示と利用者視点を大切にしながら具体的なミーティングを通じ、職員相互に日々深めながら実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、地域の子供たちとの交流会を事業所で行っていく中で、日常的に交流を行えるよう取り組みを行っている。地域の方たちへの挨拶や研修会等へのお誘いを継続的に行うことで職員と地域住民同士の交流が活性化されるよう取り組んでいる	毎年夏休みを利用して近隣の小学校と七夕交流会を行っている。小学校の発表会には出向いている。また地域住民との挨拶を徹底している他、地域住民を対象として高齢者向けの調理講習会を実施するなど、徐々に交流の輪が広がってきている。	運営推進委員に地域の方が多く利点を活かし地域資源を積極的に取り入れ、生け花教室などを実施している。高齢者向けの調理教室を既に実施しており地域貢献につながる交流の拡大を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談については即時対応するよう心がけている。外部からの相談や見学等ある場合はその都度丁寧に対応するよう心がけ、自然と溶け込めるよう雰囲気作りに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催場所を事業所内とすることで、普段の職員の様子を知っていただきながら、情報交換を行っている。可能な限り多くの方に参加して頂き多方面からの意見をいただけるよう取り組みを行っている。	小規模多機能と合同で開催し多くの地域住民も委員になっている。運営推進会議として、食事をとってもらいながら事業所栄養士を講師に食事勉強会を行い、また来年度はサービスの種類の勉強会を予定している。委員の提案でセンサーライトを設置した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域包括支援センター担当者に委員として参加していただき、事業所の運営状況の報告を行い、状況の報告を行うことで事業所の状況を把握していただき随時、相談や助言をいただけるよう取り組みを行っている。また、市主催の地域連携ケア会議に参加し、他方人との連携が図れるよう取り組みを行っている	運営推進委員を兼ねる地域包括支援センター職員は事業所の実情を理解しており、行政情報の提供も含め必要な関係が出来ている。毎月の市主催のケア会議ではホットな情報の交換がなされている。気仙地区防災の日の行事に参加し関係者とも連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ全員が研修会、意見交換を行うことで認識を高めている。夜間は防犯の為施錠を行っているが日中は行わない。個々のスタッフが意識し合うことで日々の関わりを工夫している。	身体拘束に関するビデオを視聴し、職員が作成した資料を活用して勉強会を行っている。日々のケアの振り返りの一環として、ミーティングでは具体例で話し合い、行動抑制につながる言葉遣いに気を付けようと、確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体ケアに関する虐待だけでなく、言葉使いにも注意を払い、日々のケアに当たるよう心掛けている。また、事業所を広く開放することで情報収集や早期の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の機会を有効に活用することで理解を深め、事業所内においても共有することで必要に応じて活用出来るよう取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用会開始時には契約書、重要事項説明書を用いて十分な説明を行い同意を得ている。サービス開始後も疑問点については随時相談に応じるように心掛けている。また、改正時には約款を変更し、再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者、ご家族に参加をいただき、意見をいただく機会を作っている。また、契約時に重要事項説明書の説明の中で、苦情受付機関の紹介を行っている。ケアプランの更新時にはご家族から要望をいただき、利用者、家族の思いに気付けるよう心がけている。	家族が来訪した際(備品の補充、衣類の入れ替え、通院、プランの更新時等)に要望や意見を聞いている。利用者が外に出たのが解る防犯カメラの設置や日中の施錠などについて意見が出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングにて事業所の運営について意見交換を行っている。また、月一度程度法人内事業所会議において職員の意見や要望を事業所の意見として報告させていただき、法人全体の運営にスタッフの意見が反映されるよう取り組みを行っている	管理者は年2回、全職員と10項目の個人目標を確認する個人面談を実施し、意見・提案を聞いている。職員の提案で清拭に用いるタオルを温めるタオルウォーマーを設置した。利用者の重度化に対応し、浴室にリフトの導入を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則や給与規定に沿った労務管理を心がけ、就労時間内での就業に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種委員会と法人の委員会に適任者を参加させ、専門的に業務に従事できるよう努めている。事業所内での研修の他に定期的に各種研修会にも適任者を参加させることで専門的な業務に従事出来るよう取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で運営している事業所同士での研修会に積極的に参加し情報交換を行ったり、事業所同士での交換研修、各機関からの調査や視察などにも対応することでサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活暦や病歴等を本人や家族、それまでのサービス担当者から話を伺い、アセスメントを行ったうえで職員全体でカンファレンスを行い、共有したうえでその方一人ひとりがその人らしい生活を行うことで安心の確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の話を客観的に捉え、優先順位に気を配りながら事業所の特徴と本人または家族の役割を見極め支援していくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いや不安に共感する姿勢で相談に対応できるように取り組んでいる。入居者も家族とスタッフが一緒に利用者を支えていけるよう説明を行い、同意を得て対応できるよう話し合いを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの能力を見極め、日常の作業を一緒に行うように心がけている。また、朝礼やスタッフミーティング、運営推進会議等あらゆる場面に参加していただいたり日々の関わりの中で、その人らしさを大切にすることを工夫している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診対応を家族と共に行うことを通じて体調への気遣いを意識し、日々の連絡からも本人を支える関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊時の支援や手紙のやり取りをする際にお手伝いをして。生活暦を把握することで友人や知人との関係が切れないように努めている。電話をかけて声を聴く、お盆やお彼岸にはお墓参りに出かける等の外出の支援も行なっている	月1回の受診時に家族と出かけ馴染みの床屋、美容院や自宅へ寄っている。時には知人が来てくれたり、遠方から誕生日プレゼントが届くこともある。ホームでの生活が長くなると、ここを自宅と思う人もあり新たな馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活パターンを大切にしながら、利用者同士が顔を合わせやすいように座る席を考え、会話の仲介に入っている。誰かがそばにいるという安心感を持って生活でき、いたわりの声かけが行えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と本人が安心して暮らせるように、他の事業所と連絡を取り合いながら支援している。サービスの利用が終了しても、本人と家族の状況を把握できるように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望にできるだけ沿えるように取り組みを行っている。困難な場合はご家族に相談し、助けもいただいている。本人が本当にしたい事を言葉で表現できる場合もあり、そこを汲み取ることで本人本位に支援できるように心掛けている	居室担当は決めていないが、全職員が利用者の言動を見逃すことなく思いや意向の把握に努め、それを記録している。利用者の好き嫌いが把握できない場合には家族に助言をお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中からヒントを得て、家族から得る生活歴をもとに本人の馴染みの生活をひもとき、カンファレンスを行い記録している。また、ミーティングを通じて情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、心身の状態を見極めながら状態観察と把握に努めている。食事、睡眠、排泄が普段と違う状態に気付けるようケース記録を確認しながら記入し、朝夕のミーティングで申し送りをし共有するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の気付きやこれまでの経緯を話し合いをもちながら介護計画を作成している。必要時には、見直しを検討し、利用者や家族の意向を確認すると共に計画を変更し、支援している。計画作成時にはその人の出来ることに目を向け利用者本意になるように努めている	今年度からプランの更新は、既存の本人本位のプラン(私が輝く暮らしのために)を回覧し職員が順に修正等を朱書き、ミーティングや会議で話し合い看護師の情報も加味し家族の見解も参考にしながらケアマネが原案を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の他にも、会話の内容や表情等を詳しく記録するようにしている。その他、注意深く様子を見守りたい内容に関しては、支援経過用紙に記録している。家族からの意向、楽しみ事もプランに活かせるよう取り組んでいる。記録内容をもとに介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡調整しながら、自宅への帰宅、外泊を行っている。また、利用者のニーズから楽しみごとを計画し実行している。併設されている小規模多機能と合同で行事を行うことも事業所の強みのひとつとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が来所され交流を図ることで暮らしの楽しみにつながっている。また、避難訓練などの有事の際には地域住民の方々に声をかけて協力を依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医院での受診を継続していたり、取組を行っている。身体状況を家族に連絡し、受診調整を行っている	1名を除き家族が同行して受診し、ホームでの様子をメモで医師に届けている。結果は家族から確認し記録に書き込む。ほとんどがかかりつけ医を継続し、協力医は2名が利用している。通院後、外食を家族で楽しむ方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の変更や利用者の様子に変化があった場合は看護師に相談し、対応している。必要に応じて電話での連絡・相談を行いアドバイスもいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には直接入院先に出向き、状態について病院看護師との情報交換に努めている。また、退院の時期や退院後の対応については病院関係者や家族との話し合いを重ね慎重に進めていけるよう心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人を取り巻く環境、関係機関との連絡を密に行うことで家族および本人が安心できるようなチームケアを心がけている。重度化が進行している現状においては今後の方針について本人及び家族と慎重に話し合いを重ねている状況である	入居時に、本人・家族に重度化・終末期の対応を説明し理解を得ている。職員間で話し合い最大限の生活支援を行っているが、重度化が進む中、家族や利用者の意向把握がなかなか難しく、看取り期の利用者を最終的には病院へ移送した。医療と連携した方針・マニュアルを検討している。	全ての利用者が高齢化し終末期を迎える。本人や家族の思いを大切にしつつ、生活支援の中で“ホームとして”の方針及び内容を明確にする必要がある。職員間で十分話し合い、方針・マニュアルを作成されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、マニュアル・緊急連絡網を作成することで早急に対応ができる体制を確保している。また、職員が救命救急講習を受講するなど、緊急時に即急に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも協力をいただき、昼・夜の避難訓練を行っている。地域住民の協力依頼についても運営推進委員会を中心に呼びかけを行い、地域住民との意見交換もしている。福祉避難所として有事の際の避難所生活についても説明を行っている	消防署員・運営推進委員の参加を得て夜間訓練を実施し、屋外避難路が暗いなど多くの課題が把握できた。昨夏の台風による大雨では、法人の車両やスタッフの応援を得て安全な他施設に避難した。なお携帯電話への転送サービス利用を準備中とのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格や現在の状況、状態の把握に努め、各職員がその時々状況に応じた言葉かけや対応ができるよう取組を行っている。また、なれ合いによる不適切な言葉には十分注意しながら利用者が使い慣れた方言も使いながら対応している。	利用者一人ひとり個性や特性等が異なることを十分理解し、尊厳を守るよう努めている。馴れ馴れしい言葉遣いや沿岸方言、多忙時つい無意識で不適切な言葉が出た時は、職員同士で指摘し合い福祉職員のプロとしての自覚に立ち返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の記録をもとに利用者の意向を引き出せるよう会話を工夫し、その人が自己決定しやすい環境作りに努めている。指示的な言葉かけはしないように心がけ自己決定できるような言葉かけを行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活に合わせ、利用者のペースで生活できるよう急がせず待つ姿勢を持って関わられるよう取り組んでいる。安全のため、すぐには希望に沿えない場合でも、指示的なことばかけにならないよう注意しながら支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前での整容、化粧をされる方には準備等を行い、時にはほめる言葉かけをしている。また、希望に沿って美容室に出かけたり、困難な場合には地域にある理容室に協力していただいている。好みの洋服等を買っていく支援も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を定期的実施し、嗜好を把握している。また、季節に合った旬の食材を利用して提供することで見た目でも楽しめる工夫をしている。一緒に調理を行い、味付け、味見をしていただきながら利用者に役割をもっていただけるよう支援を行っている	職員が交代でその日の献立を考え旬の食材や利用者の好みに合わせて調理している。利用者は調理や後片付けを手伝っている。利用者の嗜好や味付け等に配慮した調理とし、利用者と同じ物を食べ飲談することを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食量をチェックし、その人に合った食事量を提供している。疾患によって食事内容や量を調整しているため、全員で共有し行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が口腔ケアできるよう声掛け、誘導を行っている。本人の歯ブラシとコップの使用、椅子を用意して楽な体勢でできるようにしている。入れ歯の不具合な利用者は歯医者に同行したりすることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、便意や尿意のサインに気付けるように努め、個々に合わせた排泄介助を行っている。定期誘導する場合は記録し自立に向けた支援につながるよう努めている	排泄パターンの把握により、自立に向けて見守り・声がけ・誘導をしている。自立者は3名で、日中はリハビリパンツやパットを用いる方はいるが、オムツ使用はない。職員がオムツ着用の体験をし、利用者の立場に立って考え、個々に合ったケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際には乳製品や食物繊維の多い食材や消化のよいものを取り入れていただくよう取組を行っている。下剤や整腸剤等も必要に応じて服薬いただくよう記録や申し送りもやっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の入浴対象者については利用者の状態や要望に沿って行っている。個々に合わせた入浴時間の調整は難しいが気持ちよく入浴していただけるよう、日替わりの入浴剤を使用したり、湯温や室内の温度についても考慮している。入浴後のケアもできるだけ本人の要望を組んで行っている	週2～3回1日3人を目安に午前・午後問わず入浴できる。入浴介助時は1対1で利用者との話が弾む。入浴を嫌う場合、時間や日を変えるなど無理のない入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度や季節に合わせた布団の枚数、着ている服の調整には気を配っている。その人に合わせて居室やソファで休息がとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から薬の効能や副作用について指導を受けながら学んでいる。利用者の服薬している薬の情報が分かるように一覧表にし、閲覧できるようにすることで共通の理解ができるように取り組んでいる。服薬時の確認は原則2人で行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動の継続的支援を行えるよう取り組んでいる。また、家事を中心とした自立支援を行いながら役割を感じられるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い出し時には利用者と一緒にいたり行ったり、季節や天候に応じてドライブに出かける等支援を行っている。家族と共に外出する利用者も多くなってきている。誕生会等の行事を戸外で行い外出する機会もできるだけ設けるようにしている	桜の時期や秋刀魚の時期は事業所の駐車場での食事を楽しんでいる。ドライブは利用者の希望に応じて出かけたり、法人の別事業所の家族会やイベントへ参加する場合もある。通院時家族との外食を楽しんでくる利用者もいる。	



自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものや、必要なものがある場合は、家族へ連絡を入れ了解を得て、本人と一緒に買い物に出かけたりすることもあり、利用者のストレス発散となる場合もあると考える。買い物ノートを作成し金銭の管理にも注意を払っている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望のある場合は、ほとんど家族に電話をして要件を伝えている。場合によっては代弁させていたくこともある。家族との会話により安心していただける場合もあるため今後も継続していきたい	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や出窓に観葉植物や季節の花を飾るよう工夫し、落ち着いた雰囲気になるよう心掛けている。居心地の良い空間になるようソファ等の配置を考え設置している。また、日めくりカレンダーや季節ごとの掲示物等一年の季節を感じられる空間づくりに取り組んでいる	ホームは高台にあり、窓外は海や対岸の緑が見られ開放的である。テーブル、椅子、ソファ、畳と配置も工夫され、それぞれくつろげる空間となっている。利用者の家族が作った人形が飾られたり、写真や作品が貼られ潤いある環境である。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所や椅子、テーブル等自然に定位置となり、馴染んで生活している。利用者同士のトラブルには十分な配慮を行いトラブルとならないように配慮している	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や入居後も、自宅で使い慣れた家財道具や本人のなじみの物を持ち込めるよう家族と連絡している。布団や写真等を置くことで自宅の延長線上にあるような居心地の良い空間を提供できるように支援している。家族のご協力も得られている	居室にはベッド、洗面所があり、トイレが設置されている部屋もある。利用者や家族の要望で畳に布団としている方もいる。家族や知人の思い出の写真や、造形作品・書などが飾られ温もりと潤いが感じられる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所の作りをシンプルな造りとし、職員の見守りがしやすくなることで利用者の安全が確保されている。トイレに貼り紙をしたり、各居室には名前を貼り、表札とすることで自分の居室と分かりやすく努めている。危険な個所は職員全員で把握できるよう取組を行っている	